

(様式第1号)

■ 会議録

□ 会議要旨

会議の名称	令和6年度第1回芦屋市青少年問題協議会
日時	令和6年6月25日(火) 午前10時～正午
場所	芦屋市役所分庁舎2階大会議室
出席者	会長 山下晃一 委員 赤木和重、入江祝栄、松枝泰生、芳村美由紀、足立裕一、山田佐知、 大川啓子、藤田賀容子、山下恭範、山本卓見 欠席委員 西端充志 (事務局) 上原正也所長、高橋孝子
事務局	青少年愛護センター
関係課	青少年育成課 富田課長、こども政策課 中川係長
会議の公開	☐ 公開 ----- ☐ 非公開 ■ 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者11人中11人の賛成多数により決定した。 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の3分の2以上の賛成が必要〕 ＜一部公開とした場合の理由＞ こども大綱等をふまえた方向性の確認のため、議事内容その他部分は非公開
傍聴者数	0人（公開又は一部公開の場合に記入すること。）

1 会議次第

- (1) 委嘱状交付
- (2) 開会挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 議事

進路追跡調査についての報告（令和4年度芦屋市立中学校卒業生分）

第2期芦屋市子ども・若者計画 令和5年度実績報告について

第3期子ども・若者計画（令和7年度～）アンケート調査について

その他

2 提出資料

- (1) 次第 令和6年度第1回芦屋市青少年問題協議会
- (2) 資料1 第3期子ども・若者計画（令和7年度～）アンケート（中学生版）の調査結果
- (3) 資料2 第3期子ども・若者計画（令和7年度～）アンケート（一般版）の調査結果

3 審議内容

事務局高橋 皆さん、おはようございます。令和6年度第1回芦屋市青少年問題協議会にご出席いただきありがとうございます。私は議事に入るまでの進行をさせていただきます。青少年愛護センターの高橋です。よろしくお願いいたします。今回は人事異動や役職交代で退任された委員がごいますので、最初に委嘱式を行います。芦屋市PTA協議会、平井恭子様が退任

され、新しく芦屋市PTA協議会、芳村美由紀様が着任。芦屋市立潮見中学校大石健二校長が退任され、新しく潮見中学校西端充志校長が着任。そして、本年度の人事異動により、芦屋市教育委員会教育部野村大祐様が教育長に就任され、組織改正もあり、芦屋市教育委員会教育部参事山本卓見様が着任されました。本来ならば、野村教育長から委嘱状を直接お渡しさせていただくものですが、議事の都合上、お時間も限られておりますことから、机上の配付とさせていただきます。なお、新しい皆さまには、後ほど自己紹介を予定しておりますので、ご挨拶をお願いします。

ただいまより令和6年度第1回芦屋市青少年問題協議会を開催します。この協議会は、地方青少年問題協議会法及び芦屋市青少年問題協議会条例に基づき開催するものであります。また、この会議の定足数は、芦屋市青少年問題協議会条例（第6条）により委員の半数となっております。本日は12名中11名出席しておりますので、本協議会が成立しておりますことをご報告いたします。開会の挨拶を野村教育長よりお願いいたします。

野村教育長 （あいさつ）

事務局高橋 ありがとうございます。山下会長からご挨拶をお願いします。

山下会長 （あいさつ）

事務局高橋 各委員の自己紹介をお願いします。今年度、最初の協議会ですので、近況報告などを含めてお願いしたいと思います。

各委員 （自己紹介）

事務局高橋 事務局職員を紹介させていただきます。（事務局紹介）教育長は他の公務がございますので、退席させていただきます。

次に、協議会の進め方について説明をさせていただきます。芦屋市情報公開条例第19条の規定に基づきまして、この協議会を原則公開にしたいと思います。なお、非公開情報が含まれる場合や、公開することにより、公正または円滑な審議ができない場合は、非公開とすることができます。その際には、ご発言の前にお申し出ください。また、会議の発言内容につきましては、録音させていただきます。

委員の皆様は後日確認をしていただき、会議録として芦屋市ホームページに掲載し、公開いたしますので、ご了解をお願いいたします。そして本日は傍聴の方はおられません。次に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。（資料の確認）山下会長、司会進行よりお願いいたします。

山下会長 それでは皆さん、議事のほうよろしくお願いします。本日次第をご覧くださいと、大きくは3件です。先ほど冒頭にもありましたが、本日傍聴の方はおいでになりませんが、もしご発言の中で、議事録に掲載することが難しいと思われるようなことについては、議事録から削除ということで、仰っていただければ、議事録から削除していただく、ということをお願いいたします。このあと、それぞれ委員の皆さんのところに議事録の内容が届きますので、その際に不都合な発言がありましたら、削除修正していただくという形で取り扱わせていただきたいと思います。議事1つ目になります。進路追跡調査についての報告ということで、事務局からよろしくお願いします。

事務局上原 令和5年3月卒業生徒分です。資料はございません。口頭で説明させていただきます。卒業生は593名おりました。その中で、県外進学が増えている傾向にあります。前の年が22校だったところが49校に増えています。主には引っ越しやスポーツでの受験をし

での入学という形の生徒が多いです。退学している子ども達は16名います。引っ越しが理由として多いと思いますが、それ以外の理由で、入院やまた別の理由で退学している生徒もいるようですが、詳しいところは高校側からも教えていただけませんので、その程度の情報提供となります。最近、通信制の高校に進学する生徒が増えております。これも、不登校が多くなって、直接通わずに行けるというところでも進学が多い、と考えております。結果報告については以上です。

山下会長 ありがとうございます。ご意見ご質問ありましたら、よろしくお願いします。通信制の高校への進学が増加しているということでご報告いただきました。おそらく全国的に増加していると思うのですが、公立の通信制というよりは、私立の通信高校への進学が増えているという形でしょうか。

事務局上原 はい。私立の通信制が増えているというのもありますし、自分に合った通いやすい、勉強しやすいというような形での通信制の高校を選ぶ生徒が増えていると思います。

山下会長 芦屋にも、昔から展開されているところもあります。また、今、広域性ですので、複数の都道府県で展開している、テレビCMを打たれているようなところもあって、進学されているのかと思います。ただ、ここに進学された後の卒業後、もしくは退学の状況というのは、少し気になるかなと思います。そこまでの情報は、なかなか手に入らないということですね。

事務局上原 はい。

足立委員 昔なら中学校を卒業して働くという方が多かったのですが、今はどんな状況なのか。

事務局上原 ほばいけません。もうゼロだと考えてもらっていいかなと思います。

山下会長 県外の進学先は大阪府が多いのですか。

事務局上原 大阪はデータ上一番多いのですが、関西以外とか本当に多岐にわたっています。数としては大阪が少し多いと思います。

赤木副会長 本協議会の内容とも関わると思うのですが、不登校の子ども達の進路は、やはり通信制の高校が多いのか、そうとも限らないのか。もし資料を持ち合わせていたら、不登校の子ども達の進路について、情報共有いただければと思います。

事務局上原 現在、不登校の生徒だけの進路の情報というのは持っていないのですが、私は、昨年度までは、学校支援課というところで進路担当をしていました。そこで、各学校の進学先を見ておりました。不登校生徒の（進学先として）通信制も多いのですが、普通科といいますか公立もいますし、私立もいます。通信制が圧倒的に多いという感じではなかったように思ったのを覚えております。

山下会長 続いて議事2に移らせていただきます。第2期芦屋市子ども・若者計画で、昨年度分の実績報告について事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局上原 実績報告については、重点目標1豊かな人間力を身につけるため、子ども・若者の育ちを支援する、重点目標2困難を有する子ども・若者やその家族を支援する、重点目標3子ども・若者を社会全体で支える寛容なまちづくりを実現する。令和5年度の実績報告を市役所・教育委員会の各課に照会し、現在集計中です。詳しくは次回の協議会で報告させていただきます。

山下会長 詳しくは次回ということですので、委員の皆さんからご意見ご質問、特にないかも

ませんが、もし何かありましたら、よろしいですか。続きまして、議事の3になります。第3期子ども・若者計画の令和7年度から策定予定のものに関するアンケート調査です。こちらについてご報告よろしくお願いします。

事務局上原 青少年愛護センターでは第3期芦屋市子ども・若者計画についてのアンケートを2月から3月にかけていたしました。昨年度の内容についてもこの会にて審議をいただいたと思います。その前にとったアンケートと合わせて、主だったものをご紹介します。今回は、電子での回答に変更をしました。回答率が、様々な調査で下がっている傾向があることを踏まえて、一般用は前回の3,000人から5,000人に増加させております。回答率は下がっているのですが、回答数は前回とほぼ同数を確保することができております。

それでは、中身のほうを中学生から見ていきたいと思います。Q12は、「悩みごとを誰に相談しますか」という質問です。父親・母親のところが225人、パーセンテージが51.6%と書かれております。その中で、8番9番のところです。「8 相談する人がいない」というのが25.2%ですけれども、前回2%だったのが、今回は25%で、23%ほど増加しているのかなり増えている、と感じます。それに加えて、隣の「9 誰にも相談するつもりがない」というところも、前回14.9%のところが21.3%と、7%ほど上がっている結果が出ております。あとの項目には増減はあるのですが、それほど大きくは変わらないと思います。

Q25の質問項目の「1 自分に自信がある」です。これを、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」、「無回答」で答えているのですが、「はい」と答えた生徒が16.3%で、前回7.1%のところが9%ほど増加している傾向があります。それと、「どちらかといえば、はい」というのも、27%から32.3%と5%ほど増加しております。

続いてその下の「2 自分のことが好き」という項目ですが、前回9.9%だったのが今回25.2%と15%ほど増加をしています。よく「自尊感情を」ということを言われますが、それが一定うまくいっている、というアンケート結果になっていると感じます。

続きまして、中学生の自由記述のところで、「芦屋市の事業について、芦屋市に望むことはありますか」とまとめたものがあります。中学生は、本当に自由に書いてくれています。多いのが「娯楽施設を作ってほしい」というものです。遊び場みたいなところです。ゲームセンターやショッピングモールを作ってほしい、そのような意見が多かったと思います。

あと、学校環境のことです。エアコンをつけてほしいという意見が非常に多いです。中学校にはエアコンがついておりますので、例えば体育館や、そういった特別教室のことを言っているのではないか、と思います。教室にはすべてエアコンはついております。

あとは、多かったのが自習室です。自分が勉強したいときにできる場所が欲しいという意見がございました。中学生については以上です。

山下会長 中学生向けのアンケート結果についてご質問ご意見等、いかがでしょうか。

松枝委員 今のご報告ご説明の中で、Q25で、自信がある方に関して改善というか、自信があるほうへ動いたとか。あとQ12で、相談する相手の話で、「相談をするつもりがない」とか、その辺の数字が増えたという話がありました。

質問の仕方というのが、前回と全く一緒かどうかという疑問があります。去年の（青少

年問題協議会の) ときも、質問の仕方を見直したりしているので、一見同じような質問であっても、前後関係とか、その言葉の選び方などで、その影響で数字が変わることもあると思うのですが、その辺の見方というのは何かされてますでしょうか。表面的に数字が上がった下がっただけではなくて、質問の仕方が変わった、前後関係の並びが変わった、言葉の選び方が変わったということでの影響があるのかないのかの確認が必要でしょう。それを見過ごして単に表面的な数字だけを追いかけてもあまり意味がないところに陥ってしまう可能性もあるのですが、その辺はいかがでしょう。今やられてないのだったら、もう1回そこをお願いします。表面的な数字だけではなくて。前回のときの質問内容に対して、この答え。今回の質問に対して、この答え。ちゃんとそこがマッチングしているかどうかというのを1回見て、また教えてください。

事務局上原 わかりました。次回報告させていただきます。

山下会長 回答方法とかは変わってないのですね。タブレットとか、ネットでしたか。

事務局上原 電子での回答なので、タブレットとかで回答かと思います。

山下会長 記憶の限りでは質問項目自体は多分あまり変わってないので、なぜこんなに数字の変化があったかというのは、結構面白いと思います。もし、質問項目も回答方法も変わってない、しかも回収率もあまり変わってないのでしたら。あるとすれば、この数字の変化が一体何を意味するのか、というのは、だいぶ興味深い、とは思いました。

藤田委員 せっかく、「自分に自信がある」というパーセントが増えていい傾向だというお話のところ、水を差すようで申し訳ないのですけれど。本当の自信を持っている人というのは、自分に自信があるから、いろいろ注意されてもそれを謙虚に受けることもできる場合が多いと思うのですけど。から自信というか、「自分いけるぜ」ぐらいの感じだと、逆に注意されることで、「自分を認めてもらってない」とか、「あの人は、僕・私を分かってもらってないから、ここは、最近よく言うブラック」とか、「ここは駄目だ」みたいな傾向も、ちょっと含まれるのではないかという考えも、この結果を見て、私たち大人は感じ取っていたほうがいいのかなっていうところも。水を差すようですけど、そういう部分もあると思います。それと、いろいろな活動の中で「これができた」とか、その成功体験を積んで、ひょっとしたら「ちょっといけるんじゃない」という本当の自信の子も含まれていると思うのですけれど。から自信の子が含まれているかもしれない、という部分を残して、ぬか喜びしないように、今後対応するのも大事だと思います。

育成課富田 先ほどご質問がありました、質問方法なのですけれど。昨年度の協議会で、最初、聞き方を変える案を事務局から出させてもらったのですけれども。ただ、質問の聞き方を変えると、単純に前回との比較ができなくなるかなっというところで、最終は5年前と同じ項目で、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4択ということで、質問の聞き方としては、5年前と同じ聞き方ということに最終はさせていただきます。

松枝委員 そこで気になるのが、我々から見たら同じ質問の仕方でも、言葉の選び方をちょっと変えとか、例えば、前回のときもお話させてもらったのが「この言い方じゃあ中学生わからないよね」っていうので、言葉を選んだところも結構あったと思います。それがここに対応するかどうかかわからないのですが。そういう変化も含めて、ないかどうかを1回見ておいていただければと思いますので、お願いします。

先ほど言われたように、数字が上がったからよかったという格好だけで終わってしまったら、アンケートというのは意味がなくて。そこの裏もちゃんと含めて見ていかないと価値はないと思いますので。せっかくお金かけてやっているアンケートなのですから。

山下会長 アンケートはもう所詮アンケートでしかないのですね。それをどういうふうに解釈するのか、というのがとても大事で、そのプロセスでいろいろなご意見出していただいたらいいのではないかと思います。

ある可能性がある、ということは、別の可能性もある、ということですので、両方の可能性のことについて議論することが大事であって。一方の可能性だけ音上げしてしまって、そこで話が終わったら、結局片一方の可能性で喜んでいるのと同じような状況になってしまうので。両方の可能性を視野に入れて、こういうことがあった、ああいうことがあったという、例えば、皆さんの身近な出来事と照らし合わせていただいたりとかですね。ここの回答と対応しないかもしれないのですがね。

そういうふうなことで我々の見識を深めていく場だと思っていただいたらいいのかなと思いますので、どしどしご意見出してみてください。

赤木副会長 では、感想と質問と、1点ずつになります。まず1つめに面白い、と思ったのは、Q25です。「自分に自信がある」というのも変わったのは面白い、というところですが、その下の「自分のことが好き」というのも、いい意味で増えているのかどうか分かりませんが、「自分のことが好き」も爆上がりしていますね。ここは素直に額面通り受け取っているのか、そうではないのかというのはちょっとわからないのですが。好きなのだ、ということが増えていることは、ちょっと押さえておきたいと思います。一方で気になるのが、「無回答」がわずかながら2.2%（正しくは2.6%）増えているというのは結構な数だと思います。それを答えないということは、こういう質問がしんどいのだろうな、という、ちょっとした少数かもしれませんが、そういう子ども達はどうなのかということを知りたいなということです。

もう1つは、どこまで分析をするのかどうかなのですが。例えば、Q25の「自信がある」という質問と、Q12の質問を、いわゆるクロス集計という関連を見ても面白いかなと思います。具体的に言うと、「自分に自信がある子ほど、相談しないのか。」逆に、「自分に自信がある子ほど相談するのか。」「またその逆なのか。」普通に考えると、自分に自信があると「相談しない」となりそうですけど、中学生の場合、僕らもそうですけど、「自信があるから相談できる」ということはありませんか？自信がないときほど相談できなくて袋小路に入りこんでしまう、そういう可能性もあるので。もう少し質問の解釈の妥当性を上げていくっていう意味では、いくつかの質問を関連させて、それが関連があるのかどうか、どういう関連があるのかと見てみると、もう少し私たちの解釈の深さが上がるのかな、と思っています。どんどんお仕事を増やすようで恐縮なのですが。ちょっと関連するとか、いくつか分析手法を考えてみていいかな、というのが、質問というか、要望になってしましますが。

山下会長 元データがあつたら投げただけければ、クロス集計ぐらいでしたら、僕とか、赤木先生もできますので。確かに興味深い。私もちょっと解せなかったのです。

自分に自信がめっちゃあるのだけれど、相談する人がいないとはどういう意味だ、完結しているのか、それとも相談する人がいないってのは、相談したいことがない、というこ

となのか、どういうことなのかすごく不思議だという気がしました。これは、可能だったら、中学生を何人か呼んで具体的に話を聞きたいな、というふうに思います。この会でそういったことまでできればいいかなという気がします。

もちろん我々は、中学生以上がターゲットになっています。その意味では世代が変わった可能性もあるかな、という気がするのです。非常に面白い傾向です。前の調査が5年前ですね。その5年前とか、ちょっと何回かさかのぼって見てみて変化を追ってみても面白いかもしれないです。

事務局上原 続いて一般です。まずアンケート結果のほうです。回答された方が、女性が非常に多かったと出ております。

Q9、「朝ごはんを週に何日程度食べていますか」という質問です。「毎朝食べる」が65.1%で、前回は72.9%だったので、少し下がっていると思います。あとはそれほど大きくは変わらないです。

Q21 です。「芦屋市では若者相談センターアサガオという不登校・ひきこもり等に関する相談窓口がありますが、知っていますか」と質問です。「知っている」というのは微増なのですが、「聞いたことはある」までいれると、だいぶアップしていると思います。この5年ぐらいの間で少しは周知ができたかなと。「アサガオ」の認知度が上がったことについては、令和5年度に市民課前のディスプレイで掲載したり、(広報テレビ番組の)「あしやトライあんぐる」での特集号の放映をしたり、広報あしやでの特集号の掲載、リーフレットの刷新などに取り組んできましたので、その成果が出たのかもしれない。

Q25 です。「あなたが学校や仕事以外の活動で参加したことがある、または参加したい活動があれば、あてはまるものをすべて選んでください」です。「1 文化活動」が、前回22.2%が30.4%と8%ほど上がっております。それに対して「4 子どもたちとスポーツやキャンプをする活動(指導者)」というふうにありますが、これが20%あったものが8.6%と、12%ほど減っております。「8 特にない」というのが、10%ほど増えているという結果になっております。

Q26 の質問です。「あなたは芦屋市に若者向けにどんな場所があればよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください」という質問で、やや増減があったものが、「4 自分の悩み相談ができる場所」が6%ほどアップしております。それと「5 同じ趣味の友人が自由に集まれる場所」では7%ほど上がっているという結果になっております。

Q29、中学生と同じ質問項目で、「1 自分に自信がある」と、「2 自分のことが好きだ」という項目を見ていただきたいのですが、「1 自分に自信がある」は、「どちらかといえば、はい」というのが6%ほどアップしていて、「はい」もしくは「どちらかといえば、はい」というのが、49.2%から57.1%と、約1割上がっているような結果になっております。「自分のことが好き」という項目もですね、この2つに関しては、トータルで66.2%から73.4%ということで、これも7%アップしていて、中学生と同じというか少し増えているというのが、傾向としては似ているのかなと。中学生ほどの大幅な上がり幅はないのですが、一般の方もそのように回答をいただいています。

それから自由記述のところ、Q31 です。「若者に関する芦屋市の事業について、芦屋市に望むことがありましたら、自由に記入してください」という項目です。本当に様々な意見がありました。両面二枚にわたっているのですが、これは一部で、(全体の)2割ほど

の意見で、まだまだ意見があります。多いのが、望むこととして、支援、金銭的なものも含めた支援体制をもっと充実してほしいという意見です。

それから居場所です。先ほどの項目にもありましたが、趣味で集まれるところが増えていたりとかしたように、居場所、集まれるような場所が欲しいという意見も多かったです。

あとは、市長が教育に関してのことを言っていますので、今後教育の充実というのを期待しているという内容の意見も多かったと思います。

山下会長 ご覧いただきながら、ご意見、ご質問、或いはご要望等ありましたらお願いいたします。

赤木副会長 データが多いのでまだ見きれてないのですけれども、感想と要望です。

1つは、これだけの自由記述でまだ2割なのですね。自由記述をこれだけたくさんの方が書いてくださっているってことは、中身は様々ですけども、希望なのだろうな、期待のあらわれ。もちろんそれは不満もあると思うのですけど。そういうふうにして、声を上げることで芦屋市が良くなるということだと。どうでもよかったら書かないと思います。そこは素直にすごいなと思います。

次が2点目です。こちらがちょっと要望なのですけども。一般用のQ3の「7 社会人（学校に行っていない・仕事をしていない）」という方が、25名回答くださっていると思います。本協議会の内容とも性格とも関わって、こういう人たちが25人も答えてくださっているというのは、とても貴重だと思うと同時に、この人たちがどういう回答結果をしているかというのは、もう少し詳細に、この人たちだけを取り出して結果を分析することが大事なのかなと思います。例えば具体的に言うと、この「7 社会人（学校に行っていない・仕事をしていない）」人が、必ずしもひきこもりとは限らないかもしれませんが、一方でその可能性は強い方たちが、Q5 どういうことを楽しいとしているかとか、Q15 誰に相談しているかとか、Q26 の要望とか、そういうところでどういう悩みやニーズを持っているか、というのを共有するということは、とりわけ重要なことではないかなと思います。こちら側で一緒にやった方がいいのかもしれませんが。感想と要望です。

足立委員 一般用のアンケートは、どのような方に出されたのですか。

事務局上原 中学生用が中学2年生なので、39歳までです。

山下会長 その他いかがでしょうか。先ほどの赤木副会長からのご要望も含めて、何かレスポンスがあれば、事務局からお願いします。

事務局上原 貴重なご意見ありがとうございます。全くその通りだと思いますので、この25名の方が、他の項目どのように回答しているかというのは、調べたいと思います。次回ご報告させていただきます。

松枝委員 ちょっと教えていただきたいのですが。前回のアンケート、今回のアンケートを皆さんにして、皆さんから意見を聞いたわけですね。それに対するレスポンスの1つは、芦屋市のこれからの施策に反映されていくのだと思うのですが。もっと具体的に、アンケートに答えた人、これだけのたくさんの意見を述べた人に対して、あなたの言っていることに関しては、市は今後こういうふうなことをやっていくのだよとかいうことを、ある程度個々に答えるような場っていうのはあるのですか。きっとないのでしょうか。

この前、ネットか何かのニュースで、高島市長がサンドイッチだと言っていました。話を聞いて、考えて、検討して、それを次の機会にちゃんとレスポンスすることが大事なのだと言われて、なるほどなと思ったのです。結局、たくさんの意見を出して、そのうち、それが将来的には市の施策として出ていく格好になるのでしょうか。「私が言ったこと一体どこに反映されたの」「あれはどうなったの」ということに、どこかで答えてあげるシステムがあったらもっといいのじゃないかなと思ったので。簡単なことじゃないと思うので、もう、これはできたらということの要望なのですが。何かそういう仕組みっていうのができたら、いろんな意味で、アンケートの答え自身もまた将来的に変わっていく。芦屋自身も変わっていくようなそんな気もちよつとしたので。漠然とした話で申し訳ないですが、どこかで考えていただけないでしょうか。

事務局上原 おっしゃることは最もだと思っています。(アンケートで) 聞いて、それに対する回答というのにも必要と考えております。こういった意見が出ているということを経験したところで共有したり、検討したりして、今後どのような形でレスポンスを返していくかというのとは考えていきたいと思っております。

入江委員 中学生のほうはQ5で、一般のほうはQ6で、「未成年のときにお世話している家族はいませんか」というところで、両方何人か「している」というふうに回答されていて。その種類が、ごみ出しや飼い犬の散歩などっていうのも含まれているということで、この数字は、そういう程度のお手伝い程度のケアなのか、本当にがっつりヤングケアラーなのか、どっちなのだろう、と思いました。あともう1つは、先ほどから自分のことを自信があるかとか、好きかっていうのが、一般の方も中学生の方もパーセントが上がっているということで、これも聞き方とかもしかしたらあるかもしれないけれど、この5年でやはりコロナが挟まっているので人の意識も何か変わったのか、それとも学校のほうがそういう対策とかいろいろされていたからこうなったのか。社会的に何かそういう影響があるのか、というのもすごく気になりました。

山下会長 面白い傾向ですね。芦屋市の皆さんが、自信を取り戻したと言うべきか、何かあるかもしれないです。ちょっとびっくりです。

先ほどの公表の話とも関係するのですけれども。私も少し気になったのが、このアンケート結果の共有をどの程度の範囲で行うか、市役所内の話もそうですし、もう一つが何かの形で、例えば、A4一枚ぐらいとかでもいいので、それを市役所のホームページに掲載する。こんな結果でしたっていうような感じで。

今回のアンケートはあくまで次期の計画を作るためのという位置付けなのですが。出てきたご意見を見ていると、やはり重要というか、市民全体で共有したほうがいい部分もあるのかな、という気もします。あとの話とも関係するかもしれないのですが、せっかく子ども若者ワークショップみたいな企画もあるとすれば、その時にでも、共有なり紹介するということも多分可能だし。私は今回の結果は市民に広く共有していただいてもいいのかなと。本来だったら、例えば、自由記述で出てきたご意見を幾つかカテゴリーにして、これについては今後このように考えます、という方向まで含めて、レスポンスまで含めてできるといいかもしれないのですが。それは少し難しいかもしれないので。頂いたご意見は、計画とかに反映したり、あるいは市の他の施策にも共有していきたいです、というような感じでのご紹介でもいいので。少なくとも、よかった結果、心配だった結果と

いうのはちょっと共有できてもいいのかなと。あまりやると、事務局にご負担をおかけすることになるので、不本意なのですけれど。またそういうのもご検討いただいてもいいかなとは思いました。

藤田委員 この自由記述のなかに、いろんなことについて皆さん本当に真剣に考えてくださっている、何か分野ごとというか、担当部署ごとに分けていただいて、こういう意見が上がっていました、というのを直接お届けいただいて、そこでの何か政策なり、今後の計画にご意見があったということを組み入れていただきたいし、そういうことをしました、という報告だけでも、本当に真剣にいろいろ芦屋のこと考えてくださっている方へのご報告にもなるかなと思ったので、少し付け加えさせていただきます。

山田委員 アンケートのほうも拝見したのですが、私が見て思ったのは、自由記述にやはり正直な気持ちがとても顕著に現れているのではないかなと思いました。圧倒的に、若者たちが過ごす場所が芦屋市内にはないのだろうなと。確かによく考えたら、若い子をあまり見ないなと。どちらかと言ったら、子育て世代か、高齢者というような。私は、これ（自由記述）をずっと読みながら、週末などの駅前の風景を思い返しても、確かに中学生とか高校生はいないな、と思っていて。ゲームセンターとかそういうものを建てる建てないは別として、やはり若者の居る場所っていうのが無い。

一般の自由記述に大学生が記述しているのですが「図書館に自習室がある。自分は大学生で勉強したいけど、高校生がいたら、私はちょっと遠慮した」みたいなことも書いてありました。ここに、（山下会長もおっしゃっていたように）「意見や意思を投書できたりするフォームがあることは知っていますが、フィードバックがないと本当に見てくれているのかと心配になったりする」という記述がやはりあるので。そういう若者の気持ちをちゃんと受け入れているよと（返したほうがいい）。図書室、図書館とかもありますけど、全部浜側なのです。駅から上はどうなっているのか、というと、結局カフェとか、そういう大人が楽しむところばかりで、商業というか。若者たちが過ごせる住処というか、場所が本当に無くて。ただ、芦屋市には、コミスクがあつたりとか、割と地域の人たちは、子ども達のために何かできないかという、寺子屋みたいなのを作ったりとか、本当に一生懸命やっておられるのです。でもそういうものが全く反映されてない。どちらかという、小学生とか、そういう小さいお子さんたちには、もしかしたら、居心地がいいけれど、そこから先の中学生・高校生にとったら本当に居心地の悪いまちづくりになってしまっているのではないかな、とも思いました。

一般アンケート Q10 の「あなたが日ごろ共感を覚えたり、影響を受けたりするのは、次のうちどれが多いと思いますか」で、「3 インターネット・SNS」が613人いらっしゃるのです。その横に、「4 学校の先生」が38人なのです。これも本当に今の時代を反映しているというか、これは、結構大きな問題では。ひきこもりも増えている。裏付けも、もうSNSで全部わかるじゃないかと。学校の先生はいらないのじゃないかっていうところまできているのではないかなという危機感を持っていたほうがいいのでは、と思いました。

山下会長 確かにそうです。しかし、勉強からちょっと離れたい子とかどうするのというところで、そういう子の居場所があまりないのかもしれないですね。僕は神戸に住んでいるので神戸のことしかわからないのですけど。上のほうに行ったらたまり場がないんやと思っ

て。それは、1つの課題になってくるかもしれないですね。

松枝委員 北の方って市の施設が大体無いのですよね。南の方は開発をどんどん、埋め立て地を作ったりなんかしていて、広い土地があったり、昔田畑だったところに立ったりなんかしているから、市の施設があるのですが。JRを越えると、それこそ阪急を越えると、もう市の施設が全くない。たまにあるのは集会所ぐらいなのですよ。ところが集会所というのは、市の直接の管理ではなくて、どこかに委託しているのです。そういうところを使おうと思うと、例えば保護司会なんかで使いたいと思っても使えないって話になってしまっ
て。集会所が何に使われるか、というところ、自治会とか老人クラブだけなのです。ああいうところをもう少し、もっと一般的なところに広げないと、JR・阪急より上ってというのは、使える場所、集まれる場所はないと思います。

芳村委員 今の話にもちょっと重なるところがあると思うのですけど。極端な話、市の施設がないという。小学校や中学校を使うということはできないのかな、というのが昔から感じるところがありました。というのが、私は芦屋出身ではないのですけれども、自分自身が小学生の時は、夏休みに学校のプールを開放して、それこそボランティアの方、卒業生の方なのかわからないのですが、大学生以上ぐらいの方の見守りがあって、小学生がプールに入りこられるっていうことがあったのです。それで、実際今は、山手のほうで夏場にスイミング教室（水連学校）みたいなのはあるのですけど。山手の方はすごく通いやすいのですけど、浜側のほうとかにいらっしゃる方たちだと、朝も早いので、しかも毎日のことなので、ちょっと子どもだけで通わせるとなると負担がやはり大きい。どうしてもいつも山手での開催なので、保護者からすると、ちょっと平等に、JRの真ん中の地域だったり、浜側の地域だったり、同じように何かそういうことができないかなと。今水泳の時間はあるのですけれども、どうしても時間数も限られているので、なかなかあの時間だけで水泳が上達するのは厳しいと思うのです。それで、なかなかそのような泳ぐ場がないというところもあるので。一般の方のアンケートのところにも子ども、小さいお子さんとの関わりとかそういうのもしてみたい、やってみたいというようなことも書いてあったので、そういうことを望んでらっしゃる方がいらっしゃるのだったら、そういう方に逆をお願いをして。小学生も自由にそういったところで、今ちょっと例で水泳と申し上げたのですけれども、他の形でも、もっと小学校や中学校、これは市の持ち物だと思うので、共有してもいいのではないのかなと思います。

以前子どもが通っている小学校で、コミスクにはなるのですけれども、放課後の校庭の開放の時に、芦屋市内の高校生の、確かラグビー部の方だったと思うのですけど、遊びに来てくださったことがあるのです。ラグビー部の方なので、すごいパワーを持っているし、本当運動量もすごいので、もう子ども達の希望に沿ってあげられるぐらい遊んでいて、もう子ども達もとても楽しそうだったのですが、そういう機会がもっとあってもいいのかなって。そういう機会があると、小学生にとっても、高校生にとっても、双方にいい影響が出るのではないのかなってというのがありましたので、そういったところもぜひ検討していただけたらなと思いました。

山下会長 その他いかがでしょうか。もう、どんどんどんどん今みたいに出していただいて。実行できるかどうかは別ですけれども。また事務局なり市役所のほうにお任せしたいと思います。そういうアイデアを出し合っておく機会というのは、とても大事だと思います。

藤田委員 コロナで活動が縮小されていたと思うのですが、今のような開催は、たぶん芦屋はコミスクが担当して、いろんな企画をして、小学校のグラウンドを校長先生にお借りする形で開催されていたと思います。

プールについては、やはり安全管理が大変なので。岩園小学校はコミスク主催で水練の教室が終わった午後に、水練の先生に来ていただいて、コミスク主催で3日間泳げない子対象に、低学年を中心に3日間しております、それはとても好評で。やはり今おっしゃったように、雨で（授業が）流れたりとか、1週間ぐらいしか、小学校や中学校ではプールに入る機会がなくて。夏休みももちろん学校に来て泳ぎなさいみたいなのは無いので。泳げないお子さんも多かったです、とても好評いただいているので、今後、各コミスクでそういうことをしてみよう。コーチの先生をお呼びして、ちょっと謝礼もいることなので、いろいろ問題があるかもしれないですけど、やはり学校をそのように活発に使えると、一番みんな通い慣れていますし、安全ですし、いいかなと思うのです。

ただ、この話とは逆行して、やはり先生の働き方改革もありまして、中学校も今クラブを地域の方に移行するという話もあるので、とても難しい問題がいっぱいある現状だと思います。

山下会長 おっしゃっていただいたような形で、小学校だったら、市内にそれなりに場所が保障されているので。中学校は逆に部活動を地域移行することになると思いますので。何か地域の方々が、中心になっていただいて、その辺はちょっと本気で考えていかないといけない時期になってきたかもしれないですね。

足立委員 今言われていた高校生が図書館で勉強をしていたら気を使うということは、私の地域でも聞いております。やはり芦屋市の図書館は、自由に勉強する所が、いわゆる図書館で本を借りるのではなくて、行って勉強できるところが少ないです。弁当を持って朝から落ち着いて勉強したい子もいます。北のほうには、全然その施設が無いのです。今言われましたように、集会所はあるのですけどね。やはり、集会所は子どもがスッと入って勉強するのは難しいです。浜の図書館では、自習室がありません。西宮の図書館には、学習室があるそうですが。芦屋市はそういうところが、まだ行き届いてないかな、ということ、今のお話聞いていても感じるので、お願いしたいと思います。

山下会長 だいぶニーズのはっきりしていることなので、ニーズがはっきりしていると、対応は結構やりやすいです。もちろん我々の協議会の所管事項なのか、我々の権限でできるのか、というと、難しいところあるかもしれないですけど。ぜひこういう意見が出たということを議事録にしっかりと載せて、また次の子ども・若者計画に何か反映できるところがあったらと思います。委員の皆さんも引き続きお知恵を寄せていただければと思います。次回以降もまたぜひよろしくお願ひしたいと思います。いい意見すごくたくさん出てきて、十分勉強になりました。

ここで議事の3は閉じさせていただきます。それでは議事はこれで終了というふうになります。事務局に戻してよろしいですか。

事務局高橋 山下会長、司会進行ありがとうございました。それでは、閉会の挨拶を赤木副会長よりお願いいたします。

赤木副会長 簡単ではございますが、閉会の挨拶とします。私は、この協議会は2回目ですけれど、とても勉強になるといいですか、青少年の、若者の困難がどこにあって、どこにニ

ズがあって、そしてどういうふうに作っていけばいいかというのが、最初からわかるというより、議論を通してお互いの中で見えていく、というのがすごく印象に残りました。特に、芦屋特有の、北になればなるほど若者の居場所が意外に無い。確かに大学生以降になると、自分で作ったりもできますけど、小学生は近くに公園とかがあるけれど、中高生というのは意外に難しいのだろうな、それが実際にニーズとしても、芦屋の特殊事情を踏まえ、踏み込んでですけど、ニーズでも居場所を作ってほしい、というのは、半数以上の人が言っていて、身体を動かせるところとか音楽施設とかにニーズがある。実は、自尊感情を高める、というのは政策でタッチできるところから距離があります。場所を作る、ということは、もちろん難しいけれど、相対的に、政策がタッチしやすいところなのかなと思います。

そうということが非常に勉強になりました。勉強になっただけでは駄目なのですが、また一緒に議論、対話をしながら作っていければと思います。ありがとうございました。

事務局高橋 本日は皆様の活発なご意見のおかげで非常に有意義な会議となりました。長時間まことにありがとうございました。これで令和6年度第1回芦屋市青少年問題協議会を終了いたします。